

⑫ 公開特許公報(A) 平4-135507

⑤ Int. Cl.⁵A 45 C 9/00
A 42 B 1/00
A 62 B 17/04

識別記号

庁内整理番号

B 6936-3B
6704-3B
A 7231-2E

④ 公開 平成4年(1992)5月11日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑥ 発明の名称 着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグ

⑦ 特 願 平2-259928

⑧ 出 願 平2(1990)9月27日

⑨ 発 明 者 関 通 子 広島県広島市東区温品7丁目2-16

⑩ 出 願 人 関 通 子 広島県広島市東区温品7丁目2-16

⑪ 代 理 人 弁理士 古田 剛啓

明 細 書

1. 発明の名称

着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグ

2. 特許請求の範囲

〔1〕 開口部に吊下げ用紐帯(1a)を取り付け、且つ側面に開閉自在のカバーを付けた覗き窓(1b)を設けた外袋(1)、その外袋(1)の底部中央に設けたロック付きの貴重品入れ(2)、その貴重品入れ(2)の上方外袋(1)の内側に着脱自在に嵌込む内袋(3)、外袋(1)の内面覗き窓(1b)側に設けた防災マスク(4)、外袋(1)と内袋(3)との隙間に形成した防護具類収納室(5)、その収納室(5)に収納した照明灯及び防護具類(7)よりなる着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグ。

〔2〕 開口部に吊下げ用紐帯(1a)を取り付け、且つ側面に開閉自在のカバーを付けた覗き窓(1b)を設けた外袋(1)、その外袋(1)の底部中央に設けたロック付きの貴重品入れ(2)、その貴重品入れ(2)の上方外袋(1)の内側

に着脱自在に嵌込む内袋(3)、外袋(1)の内面覗き窓(1b)側に設けた防災マスク(4)、外袋(1)底部貴重品入れ(2)の周囲に形成した防護具類収納室(5)、その収納室(5)に収納した照明灯(6)及び防護具類(7)よりなる着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグ。

〔3〕 防護具類(7)として酸素入りボンベ(7a)・炭酸ガス吸収器(7b)を用いる請求項1又は2記載の着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグ。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は、平常時はショルダーバッグ或はセカンドバッグとして使用し、災害発生時或はその虞のある時は安全帽として頭に被り、しかも附属の防護具を使用可能な着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグに関するものである。

<従来の技術>

建物内で火災等が発生した場合、慌てて戸惑い、なす術もなく煙に巻かれ、一酸化炭素で命を失う

人の何と多いことか。災害は忘れた頃にやって来る。この言葉ほど、災害に対する備えの大切なことを言い表わした言葉はない。そのために多くの専用の防災施設・防護具・避難具等が提供されている。しかしながら、いずれも建物の一定場所に準備されているか、災害時或は災害発生の可能性が高いと予想された時、携帯するものであって、平常時に携帯していて、必要時に直ちに使用することが出来るものは殆どない。

< 発明が解決しようとする課題 >

この時、別の目的で携帯し、常用しているものを直ちに防護具に変え、それを使って安全な場所に避難することが出来るものがあれば、多くの人々が助かり、大変便利である。

本発明は、上記課題を解決した着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグを提供することを目的としている。

< 課題を解決するための手段 >

図面を参考して説明する。上記目的を達成するために、第1の発明に係わる着脱式防護具付き防災

帽子兼用バッグは、開口部に吊下げ用紐帯1aを取り付け、且つ側面に開閉自在のカバーを付けた覗き窓1bを設けた外袋1、その外袋1の底部中央に設けたロック付きの貴重品入れ2、その貴重品入れ2の上方外袋1の内側に着脱自在に嵌込む内袋3、外袋1の内面覗き窓1b側に設けた防災マスク4、外袋1底部貴重品入れ2の周囲に形成した防護具類収納室5、その収納室5に収納した照明灯6及び防護具類7よりなるものである。

第2の発明に係る着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグは、開口部に吊下げ用紐帯1aを取り付け、且つ側面に開閉自在のカバーを付けた覗き窓1bを設けた外袋1、その外袋1の底部中央に設けたロック付きの貴重品入れ2、その貴重品入れ2の上方外袋1の内側に着脱自在に嵌込む内袋3、外袋1の内面覗き窓1b側に設けた防災マスク4、外袋1と内袋3との隙間に形成した防護具類収納室5、その収納室5に収納した照明灯6及び防護具類7よりなるものである。

なお、防護具類7としては、酸素入りボンベ7

a・炭酸ガス吸収器7bを使用する。

< 作用 >

上記のように構成された着脱式防護具付き防災帽子兼用バッグは、平常時はセカンドバッグ等の携帯用物入れとして使用し、災害時は内袋3を引出し、外袋1を逆さにして被り、防災帽子として使用することが出来る。その上、照明灯及び防護具類7を収納してあり、それらを使って、慌てることなく、安全な場所に避難することが出来る。

< 実施例 >

第1の実施例について第1図乃至第4図を参考に説明すると、1は防災帽子兼用バッグの外袋であって、布・合成樹脂・合成皮革・天然皮革等より製造したものである。1a、1aはその外袋1の開口部に取付けた吊下げ用紐帯、1bは外袋1の側面に開けたところの開閉自在のカバー付き覗き窓であって、外袋1を逆さにして被ると、丁度目の位置に来るように設けてある。なお、覗き窓1bには透明な薄板を嵌込んである。2は外袋1の底部中央に設けたロック付き貴重品入れ、3は

外袋1の内側且つ貴重品入れの上方に着脱可能に嵌込んだ内袋、4は外袋1の内面で且つ覗き窓1b側の鼻・口に当たる部分に設けた防塵・防毒・防煙用の防災マスクであって、後記酸素入りボンベ7a・炭酸ガス吸収器7bに接続されている。5は外袋1と内袋3との隙間に形成した防護品類収納室であって、酸素入りボンベ7a・炭酸ガス吸収器7b等の防護品類7を収納してあるが、その他眼鏡・耳栓等を追加することも出来る。

第2の実施例は、第5図乃至第6図に示すように第1の実施例の構成のうち、防護具収納室5を外袋1の底部、貴重品入れ2の周囲の隙間に変更し、照明灯6を収納有する場所を別に設けたものである。

次に作用について説明する。先ず平常時は、第4図に示すように、セカンドバック或はショルダーバックとして使用し、外袋1に内袋3を嵌込み、吊り紐帯1a、1aを手にて持ち上げたり、肩に掛けたりして携帯する。その際、貴重品は貴重品入れ2に収納し、ロックに鍵を掛け、通常品は内袋3に

入れる。

災害時、例えば建物内で火災が発生した場合、内袋 3 を中身の品物を入れたまま、外袋 1 から引出し、貴重品は貴重品入れ 2 に強したまま、外袋 1 を逆さにし、覗き窓 1 b をカバーを開いて、第 2 図及び第 3 図に示すように、頭から被り、防災帽子として使用する。

そうすることによって、周囲が暗かったり、煙等で視界が悪くなったりした場合、照明灯 5 a を点灯し、周囲の状態を正確に把握することが出来るように視界をよくし、

また防災帽子が肩より上方を覆い、頭・顔・首等を火災や突起物等に直接触れるのを防止し、貴重品入れ 2 が頭の上に来て、緩衝材として作用し、落下物による衝撃を弱め、火傷・打撲・裂傷その他負傷の危険から保護する。

その上、鼻・口部分を酸素入りボンベ 7 a・炭酸ガス吸収器 7 b に接続された防災マスク 6 が覆い、一酸化炭素その他の有害ガスを含む煙に巻かれても、聞くは中毒になったり、窒息したりする

こともなく、安全な場所に避難する時間的余裕を与えてくれる。

< 発明の効果 >

本発明は、以上説明したように構成されているため、以下に記載される効果を奏する。

平常時はセカンドバッグ或はショルダーバッグとして携帯使用可能である。

災害時は、頭部を落下物・火災・一酸化炭素等の有害ガスによる中毒・窒息等の危険から保護し、安全な場所に避難させることが出来る。

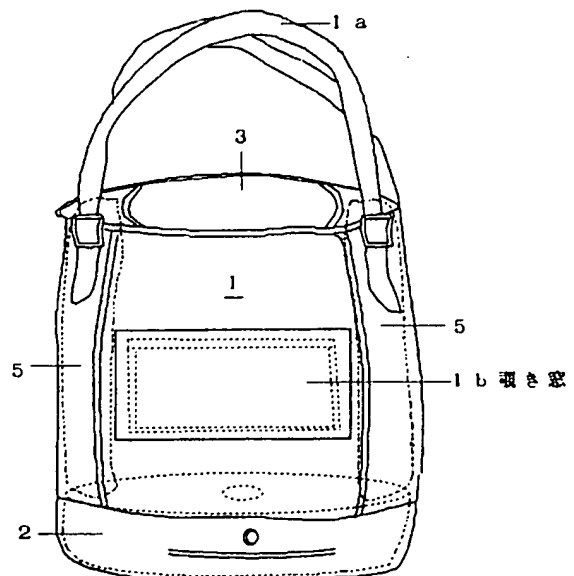
4、図面の簡単な説明

第 1 図は第 1 の発明の実施例を示す正面図、第 2 図はその災害時の着用状態を示す正面図、第 3 図はその災害時の着用状態を示す要部拡大正面図、第 4 図はその平常時の携帯状態を示す正面図である。第 5 図は第 2 の考案の災害時の着用状態を示す斜視図、第 6 図はその災害時の状態を示す正面図である。

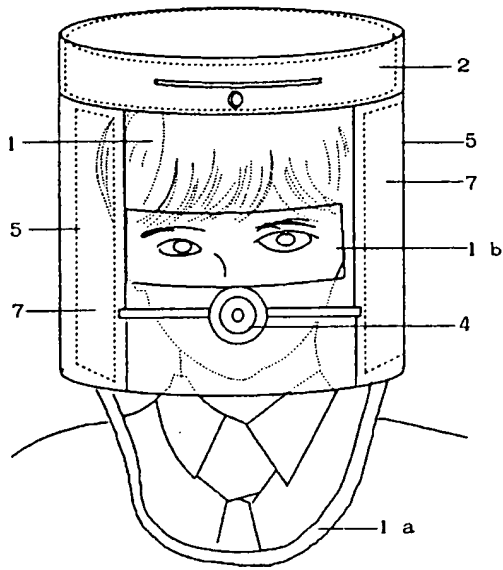
- | | |
|-----|---------|
| 1 | 外袋 |
| 1 a | 吊下げ用紐帯 |
| 1 b | 覗き窓 |
| 2 | 貴重品入れ |
| 3 | 内袋 |
| 4 | 防災マスク |
| 5 | 防護具収納室 |
| 6 | 照明灯 |
| 7 | 防護具類 |
| 7 a | 酸素入りボンベ |
| 7 b | 炭酸ガス吸収器 |

特 許 出 願 人 関 通 子
代 理 人 弁 理 士 古 田 剛 啓

第 1 図



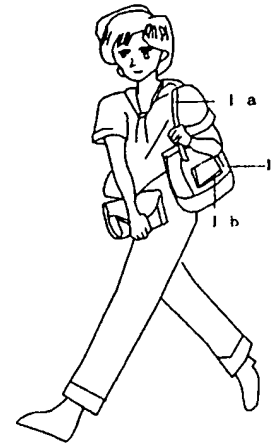
第 2 図



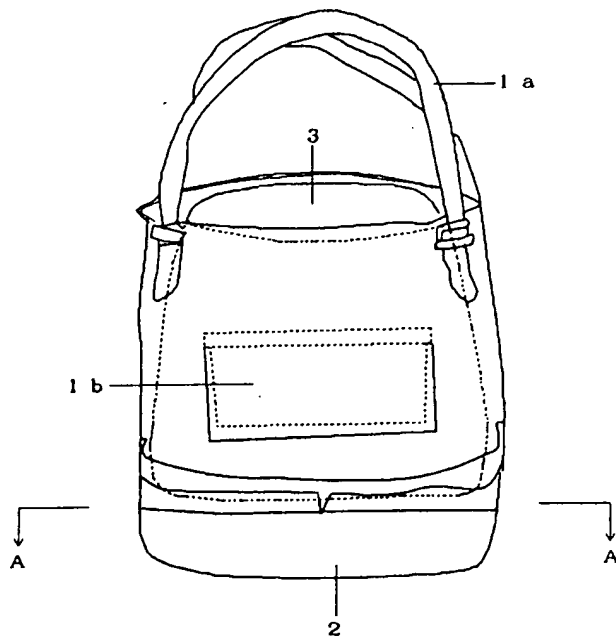
第 3 図



第 4 図



第 5 図



第 6 図

